

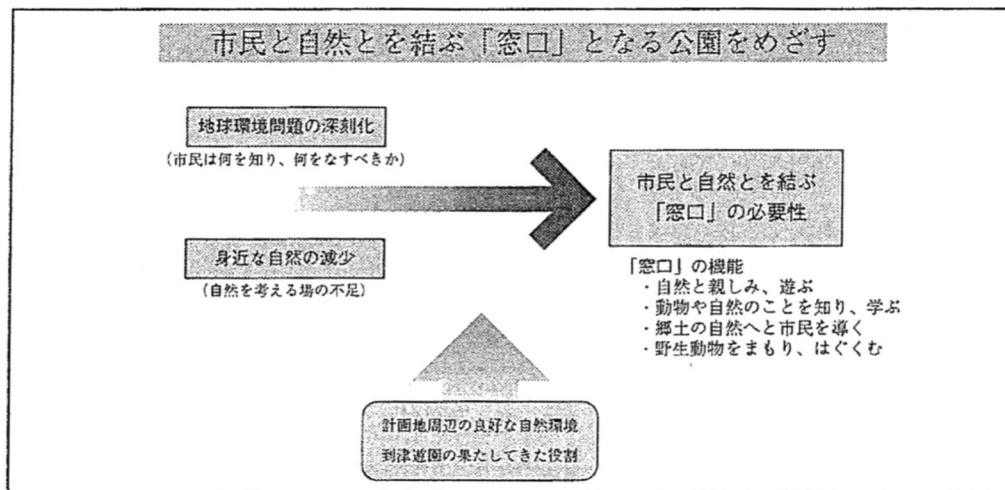
到津の森公園の現状

1 開園の経緯

「到津の森公園」は、「旧到津遊園」の閉園の発表後の当時26万人を超える存続署名や市議会の全会一致の存続決議などを受け、市が引き継ぐ形で平成14年4月に開園した。

現行の基本計画

<基本理念> 「市民と自然とを結ぶ『窓口』となる公園をめざす」



<基本方針>

- ・ 自然環境や動物とのふれあいを通じて楽しみながら学習する

「自然環境教育施設」とする。

- ・ 市民や企業などから様々な協力が受け入れられる

「市民が支える公園」とする。

- ・ 良質なサービスを継続的に提供するため

「効率的な運営」を目指す。

- ・ 県と協議・協力し

「中央公園と一体的な整備」を行う。

「市民と自然とを結ぶ窓口」という基本理念を掲げ、自然や動物、人にやさしい公園を目指している。本年度は、開園から20年を迎えたことを機に、動物の展示施設の整備、南側エントランスのリニューアル、他施設との連携事業などに取り組んでいる。

2 入園者数

毎年38万人前後の入園者数で横ばいの状況であったが、令和4年度は開園した平成14年以来の20年ぶりに40万人の来園があり、これまでの来園者は800万人を超えた。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入園者数(人)	378,742	265,364	326,474	403,995

※コロナ禍の緊急事態宣言の影響でR2.4.9～5.17(39日間)、R3.5.12～6.20(40日間)は休園。

3 管理運営

指定管理者である(公財)北九州市どうぶつ公園協会が管理運営を行っている。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
指定管理料 (千円)	124,285 (8,875)	164,498 (54,707)	131,474 (15,826)	142,358 (26,716)

※()は新型コロナや光熱費高騰による市からの補填費用で内数

4 動物の飼育展示

令和5年4月現在、約80種470点の動物を飼育展示しており、自然環境と動物が一体となった生態展示に取り組んでいる。

5 市民が支える公園

「友の会」や「動物サポーター」、「基金」、「ボランティア」など多くの市民に支えられており、下表のとおり金額は、ほぼ横ばいの状況である。

ア 友の会、動物サポーター、基金の合計 (単位：千円)

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
26,596	27,038	29,759	29,612

イ ボランティア

市民ボランティア「森の仲間たち」(令和5年3月末現在 会員120人)、「ちからの会」(同18団体)などが、園内でのイベント活動、園のPRや広報などの活動を行っている。

6 自然環境教育施設としての取組み

ア 林間学園

数日間(令和4年度は3日間×2期)のプログラムの中で、動植物に親しみ、友情を深めながら子どもたちに社会性を身に付けてもらうことを目的に実施している。

(令和4年度の参加者229名)

イ 学校の社会見学等

令和4年度 402校 30,650名

(幼稚園、保育所、保育園、小中学校・支援学校、市外学校を含む)



7 園の魅力高める取組み

ア 他の動物園との連携による動物の導入

R1.12 ライオン1頭(オス)を大分県・アフリカンサファリから導入

R4.9 ミドリコンゴウインコ1羽(オス)を静岡県・伊豆シャボテン公園から導入



イ 遊具施設の充実等

R3.4 観覧車の再稼働

同上 ファイヤーファイター(回転する乗り物に乗って、水鉄砲を撃つ遊具)、

R3.10 ハッピーカンガルー(座席が上下に跳ねるように動く遊具) など

ウ 20周年事業等

R4.5 チェーンソーカービングの実施

R4.7 おでかけ応援事業として、入園料を無料化(8月末まで)

いのちのたび博物館との連携事業(サテライト紹介、スタンプラリー)実施

R4.11 レッサーパンダ遊び場(運動場)の整備、式典開催



エ 南側エントランス整備事業

到津の森公園の賑わいづくりや魅力向上を図るため、公募設置管理制度(Park—PFI 南側エントランスにおいて、来園者の期待感を高揚させるような動物公園にふさわしいエントランス施設や飲食施設を整備した。(R5. 3)

公募設置管理制度 (Park—PFI)

都市公園内において、飲食施設などの公園利用者の利便性向上に資する施設の設置と、そこから得られる収益を活用して、周辺の園路、広場等の公園施設の整備を一体的に行う民間事業者を公募により選定するもの。

